

「茶友と行くともつと楽しい」

と、茶会の
トコロを探したい

茶の湯が元気な街

瀬戸内へ

「瀬戸内の茶の湯文化が面白い」。かねてからそんな噂を

耳にしていた、漆芸家・村瀬治兵衛氏夫人の亜里さん。

茶の湯友達の大村万里子さんと一緒に

香川から直島、岡山を巡る旅に出掛けました。

都内の自宅で50年以上続けている月釜に

刺激をもらうこと、そして旅の出会いを持ち帰って

茶会を開くことを期待して――。

企画&メイク、着付け＝松原志津枝 協力＝桶田俊二



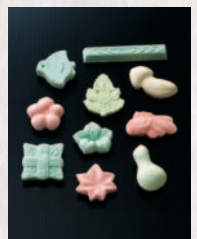
〔木型工房市原〕

まずは オリジナルの 木型をオーダー

「『マイ木型』で茶会のお菓子作り。
さまざまなおアイデアが膨らみます」



茶の湯アドレス 16



木型工房市原

香川県高松市花園町1-17-30

☎0877-866-1371

http://www.8.tiki.ne.jp/~kigata

※工房見学は事前の予約制。

オリジナル木型は

5連38,000円。

製作期間1カ月ほど

旅をしたのは……

漆芸家の村瀬治兵衛氏夫人で、小誌でも人気の工芸ブランド「嘉門工芸」を主宰する村瀬亜里さん（裏千家）と、表千家でお茶を学ぶ大村万里子さん。陶磁史研究家・林屋晴三氏のライフワークである「茶の湯同好会茶会」の水屋を、ともに手伝う仲。

四国でただ一人の菓子木型職人である市原吉博さん（中央）の工房を訪れた村瀬さん（左）と大村さん（右）。市原さんが提案するオリジナルの木型と香川県の名産・和三盆で作る干菓子に、興味津々の村瀬さん。木型のデザインを3人で相談中。



茶の湯アドレス 17

永楽亭
香川県丸亀市城東町1-8-9
☎0877-241-0299
営業11時30分〜13時30分
17時30分〜20時30分
無休
※昼6,000円〜
夜10,000円〜
完全予約制
<http://www.eirakutei.com>



(右右)こちの丸仕立て、椎茸、ほうれん草、人参、白髪ねぎの煮物椀。
「産卵を終えた瀬戸内のこちは、夏とは違った味わいでおいしい」とご主人。
(右)茶懐石は事前にリクエストが必要。

1日目 pm12:00
高松市〜丸亀市

この味が近所にあつたなら……「永楽亭・富久ろ屋」

お

昼は茶の湯を愛するご主人、野原太さんが女将と切り盛りする丸亀市の料亭「永楽亭」へ。高松市から車で西へ40分、茶事をお願いすることもできる茶室で頂く懐石は、瀬戸内の旬をいかしたものの。「海を知り尽くしたお店ならではのおいしさ。おもてなしの姿勢が勉強になります」と大満足のふたり。「干菓子や常時20種類以上あり、ひとつから買えるなんて。お茶が盛ん

な土地だからこそですよね」と大村さん。高松市に戻って訪ねたのは、片原町商店街にある菓子店「富久ろ屋」。1917年創業で、お茶席の菓子といえばここ、と地元の人々に支持されています。

「江戸幕府の親藩の城下町だった高松は、文化の成熟した街。三千家はもちろん、さまざまな流派の茶の湯が盛んです。毎週どこかでお茶席が掛かっていますよ」と店主の木野戸秀行さ

ん。絶え間なく訪れる地元客に交じり、村瀬さんと大村さんもお土産の菓子を求めました。「生菓子の姿もおいしいですね。ご近所にこんなお店があるのはうらやましい」と村瀬さん。



(右)裏千家で茶道を学ぶご主人と。(下)季節ごとに、10種類以上の上生菓子が並び。手前から「木の間の錦」「唐錦」「光琳菊」各157円。干菓子は各47円。



茶の湯アドレス 18

富久ろ屋
香川県高松市片原町10-16
☎0877-821-3011
営業9時〜19時
休1月1日
<http://www.tomikuroya.co.jp/>



ひと目見て、欲しいと思える、
センスのいいきものがたくさん”



(上上) 大きなカウンターでゆっくり
きものや小物を選ぶことができる。
店主夫人の蓮井祥子さん(左)の
日々のきもの着なしも人気。
(上) 村瀬さんがオーダーした帯は、
ペルシャの絵皿がモチーフ。
帯は12万円、きものは
18万円、が価格の目安。
(ともに税別・仕立て上がり価格)

茶の湯アドレス 19

や和らぎたかす

香川県高松市今新町1-4
高須ビル12F
☎087182116341
Ⓧ10時〜18時 ㊿日・月曜
<http://www.takasu.cc/takasu-index.html>

きものは卒業』と言っていた知
人が、こちらでまたきものが
着たい!と思つたと聞いて。ずっと
伺いたかつたんです。丸亀町商店
街に戻つたふたりが向かつたのは、
1950年創業のきもの専門店「や
和らぎたかす」。ギヤラリーのよう
な店内には、店主の蓮井将宏さんが
日本全国の職人を訪ねて作り集めた
美しい反物や小物が並びます。
「東京や京都でもなかなか見つか
らないような、センスのいいきものや

帯がたくさん。リーズナブルなものも
嬉しいですね」と大村さん。「お茶会
で着たいきものなのですが、帯が難
しくて……」と、村瀬さんは持参の
きものに合う帯を相談。ふたりとも
お気に入りの帯が見つかりました。
「おふたりと作り手の仲人を務める
ことができ嬉しい。和服は日本の
宝物。職人の方々の正直な仕事を、
正直にお客様にお伝えしたい」と蓮
井さん。旅の始まりである香川での
一日は、実り多いものになりました。

1日目 pm 17:00
高松市

茶会の きもの熱、 再燃!

「や和らぎたかす」



(左) 京都のガラス作家・
荒川尚也氏が初めて
造つた抹茶碗。2階にある
蓮井さん主宰のギヤラリー
「ギヤラリーen」では、
工芸作家の企画展も盛ん。
(左左)「前柄の幾何学も素敵」
と並里さん。